

椅子と机のお話し

一学期も7月にさしかかり、入学してきた1年生もだいぶ学校生活に馴染んできている様子が伺えます。そのような中毎年私が気になるのが生徒の学習環境です。特に気になるのが学校生活の大半を共にする言わばパートナーのような存在の椅子と机です。今回はその椅子と机のお話です。

皆さんは不思議に思ったことはないでしょうか？生徒の数だけ体格(身長、手足の長さ、体幹の太さ、座面の大きさ)がたくさん存在するのに、なぜみんな同じ机・椅子を使用しているのだろうと…。

体格の大きな生徒は何とか合わせられるのですが、小さい生徒の現状は悩ましいものがあります。足底を床に接地することができず、椅子の脚に自らの脚を巻き付けて安定を図ろうとしたり、極端に高い机に苦慮し、楽に手を動かすことができなったりという場面を見受けます。運筆の際、食事の食具操作、道具の使用など座面の安定と足底接地、肩の力が抜けたリラックスした手は非常に重要で、それを可能にする環境設定は絶対に必須です。

そのため、毎年1学期は1年生を中心に各教室を訪れ座位環境の評価を行い、体格の低い生徒に優先的に高さ調節が可能な椅子と机を提供し、座位環境の調整を行っています。また体幹が十分に発達していないため、前方に滑って崩れた姿勢(仙骨座り)になる生徒には滑り止めシートを貼り付ける等の支援を行っています。これから生徒の姿勢でお困りの際はどしどしご相談ください。生徒の豊かな学びのためにまずは座位環境から見直していきましょう。

